

伊丹市総合交通会議(道路部会) 会議録

- 1 日 時 令和2年8月24日(月) 13:30～
- 2 場 所 伊丹市役所 議会棟 3階 議員総会室
- 3 出席者 **【委員】** 敬称略
秋山 孝正、高橋 愛典、片岡 大蔵、野津 俊明、岡 伸治、
須磨 昭文、菊地 信彦、佐々木 知之、藤田 幸治、森脇 義和
(欠席委員) 三宅 豊文
【オブザーバー】
(欠席) 長島 哲男
【事務局】
交通政策室長 河南 佳孝、交通政策室主幹 宇高 正晴、
交通政策室主幹 阪上 博之、交通政策課長 大宮優、
交通政策課主査 猪原 光弘、都市安全企画課主査 福井 純、
交通施策課主任 萱野 僚太、交通政策課員 入江 稜平
- 4 次 第
 1. 開会
 2. 委嘱状の交付
 3. 委員紹介
 4. 定足数の確認
 5. 会議録署名委員の指名
 6. 議事
 - ① 伊丹市総合交通計画中間改訂版(案)について
 - ② 伊丹市自転車活用推進計画(案)
 7. 事務連絡
 8. その他
 9. 閉会

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員紹介
- 4 定足数の確認
- 5 会議録署名委員の指名
- 6 議事

① 伊丹市総合交通計画中間改訂版（案）について

伊丹市総合交通計画 中間改訂版(案)に基づき、事務局から説明がなされた。

○部会長

前回までに出た意見が、どのように反映したかというところに重点を置いての説明であった。提案された委員を中心にご確認してもらいたい。データの過不足等があれば指摘をお願いする。

○委員

渋滞交差点が3箇所から1箇所になっているが、この交差点以外は問題がないということか。道路交通について、今後実行すべき点がない場合は明確に示した方がよい。

○事務局

市内の渋滞交差点について、前期総合交通計画策定時は兵庫県の「渋滞交差点解消プログラム」に3箇所あがっていたが、県のプログラム見直しで南町4丁目の1箇所のみとなった。前期総合交通計画に、渋滞交差点の位置を示した市全域の地図が掲載されているので、環境の変化として示している。施策としては、「渋滞交差点の解消・緩和」として別の頁に記述している。県と市が実施主体となって、県は「渋滞交差点解消プログラム」に基づいて渋滞交差点の解消・緩和をめざし、市は渋滞とまではいかないが混雑している箇所もあるので、道路の利用状況、渋滞状況を把握しながら渋滞解消に向けて取り組むことにしている。

○委員

自転車の事故率が兵庫県の平均より高いということを問題にしているが、さらに問題なのは、全国的、あるいは県全体でも基本的に交通事故は減少しているにも関わらず伊丹市では交通事故発生件数が増加していることである。平成7年と比べて長期的な減少をしているということより、見直しをするなら、交通事故に関して近々に考えなければいけない重要な点を示すべきである。

○事務局

本市は過去から交通事故における自転車関連事故の割合が高く、ここ数年増加しており、市も危機感を持って取り組んでいる。後期の施策にも入れているが、これまで取り組んできた啓発だけでは事故が減らないので、警察と協力した取り締りを強化していくことにしている。警察も部署を越えて複数の担当が協力した取り組みを始めている。今後も継続して、事故が減少するよう取り組みたい。

○部会長

事故が多いのは、伊丹市特有の事情があるのか。

○事務局

本市は地形が平坦で自転車が走りやすい環境である。県下で自転車事故の多い市は尼崎市、高砂市、姫路市、加古川市などがあげられる。山間部や坂の少ない平坦な市街地は自転車事故が多く、伊丹市も例外ではない。

○委員

自転車に限った話ではないような気がする。根本的な道路交通の問題として、全国的に減少している交通事故が増加している。これはかなり深刻な問題だと思う。事故分析をされている警察のご意見を伺いたい。

○事務局

確かに、平成28年の件数が少なかったから、増えているように見えるが、概ね自動車についても、高齢者の事故件数は減少傾向かと捉えている。警察に事故状況の分析をお願いしている。

○委員

交通事故件数のグラフを書いて、この様になるのは珍しい。少なくとも、交通工学的な解明と交通安全施策として考えてはどうか。

○事務局

平成28年に極端に減った理由はわからないが、それ以降は、1000件以上あったのが若干減少傾向にはある。ただ、全国的な傾向から言うと、もう少し減ってもいいと思う。啓発事業に力を入れていたが十分な成果が上がっていないため、警察と協力した摘発にも力を入れていこうと考えている。事故が減少しない原因の特定までは至っていないが、事故状況や件数の内容をさらに詳細に分析して、原因究明と今後の対策に役立てていきたいと考えている。

○部会長

今の交通事故の話は、高齢化で高齢者自体が増えているというのもあると思う。自転車は自転車で別途、増えているということ。高齢者が自転車に乗って事故に合うという可能性もあるかもしれない。そこは、前段としてデータを掲載するにあたり、警察ともデータの検討を進めていただいた方がいいと思う。平成28年がむしろ異常なのかもしれないし、データの取り方がこの年だけ間違ったとか変わったというのはいり得ないと思う。グラフに関しては、ここさえなければ、むしろ横ばいというか、しいて言えば減少傾向という読み方もできなくはない。もう少し検討した上でここに反映できればと思う。

道路混雑は減っているということだが、ベストミックスという言葉があったが、道路交通から公共交通への転換を図るということは盛り込んでいるのか。

○事務局

基本目標2として「交流を支える公共交通の充実」を上げている。基本戦略2

－①公共交通の利便性向上、２－②公共交通の利用促進の各施策の実施によって取り組んでいく。

② 伊丹市自転車活用推進計画（案）について

伊丹市自転車活用推進計画(案)に基づき、事務局から説明がなされた。

○部会長

６章は道路保全課で作成をされた。どうしてもこういう計画はいろんな部署に跨ることになるかと思うが、フォントや節の番号等の体裁が統一されていない。市全体の方針があればそれに合わせてもらいたい。内容に関してはどうか。

○委員

取組内容にイベント、啓発や教室などがあるが、４月以降は特にコロナの影響で直接対面した啓発やイベントは難しい。これはしばらく続くと思う。そうしたことに對する何か取り組み、リモートでの実施等を考えているのか。

○事務局

これまでは自主防災組織の防災訓練時に自転車安全教室を開催するなど、対面的な形で実施していた。リモートでの実施等への対応として、学校向けには、啓発動画を作成して、DVDを貸出するなど、対面方式からの転換も検討している。自主防災組織における交通安全教室についても、各自治会等の意見を聞いたうえで、できるだけ柔軟な展開を図っていきたい。

○部会長

総合交通計画とも関連する部分があるので、総合交通計画も含めて、改めて意見、質問はないか。

○委員

自転車活用推進計画の４つのテーマ。駐輪関係の話で、マナーという言い方をするのが非常に気になる。マナーが悪いから、マナーを直しましょうということを計画とするのか。そうではなくて、放置自転車とか、それまでの駐輪のいろいろな政策をやってきて社会的に意義があったということではないのか。

マナーが悪いとは、利用者の行動が良くないのを政策的に改善するという意味になる。むしろ市民も利用者で、放置自転車で迷惑を受けるのも市民なので、皆で一緒にやりましょうということ。皆で自転車の使い方を協力し合う。その具体的な内容が、放置自転車の対策である。これは、既に効果があったと認識している。目標Ⅲの書き方と、まだ、どれくらいやるのか。駐輪ラック等で以前と比べるとかなり効果があって、市民の理解もある程度得られていると認識している。

○事務局

表現については、ご指摘をいただいたので見直しを検討する。現在の状況は、1000台以上あった放置自転車が100台そこそこで目標以下になっている。効果は上がっているが、引き続き目標以下に収まるよう取り組みを進めていく。

ただ、あまりコストをかけられないので、より効果的な手法を取りながら効果が維持できるような形で継続していく。

○部会長

例えば、「自転車を美しく止めるまち」とか、そういう言い方をの方がいい。「はしる」、「とまる」とあるが、走ったらどこかで止まる。放置自転車対策も長い歴史があり、かなり効果が出てきた。レベルが上がってきて、美しさを求めるところまできていると思う。それが町的美観に繋がれば更に中心市街地の魅力の向上にも繋がっていく。

○委員

少し前に戻るが、総合交通計画の後半、第2章に沢山の施策を表に並べている。個々の施策を並べるのもいいが、いくつかは特徴的なもの、あと4～5年でこういう整備をする、こういう物をつくる。単独でもいいが他と違うものを挙げられないか。

○事務局

これは中間見直しということで、残りは4年。4年間で取り組める施策は何かということ。例えば、今回、新規として入れた施策としてはトピックスとしている。そちらの方で頭出しして掲載している。

○委員

何か名前を付けて、これはやりますというのが分かりやすい。

○事務局

前期の計画の中では、ハードルが高く実現が難しいものも入っていたが、今回は4年間で実際にできる範囲で施策を掲載することを考えている。ここに載っている施策はこの4年間の中で全て取り組む。4年間で完成形に持っていけないものは、研究という表現にしており、掲載したものは、その方向に向けた情報収集や研究を行うものと位置づけている。

○部会長

バス事業者の皆さんの意見、感想はどうか。

○委員

自転車活用推進計画の中で、自転車事故の件数や統計を取られていて、施策として交通安全教室等に取り組んでいくとあったが、事故の年代別の数字はあるのか。例えば、小中学生が多いということになると学校対象にやっていることが有効ということの裏付けになる。

○事務局

掲載のデータは警察が取っているデータで、インターネットで調べたり、直接警察から得ているもの。現時点で年代別のデータは持っていないが、通学時間帯の高校生が特に多いと聞いている。

○事務局

事故のデータについては、伊丹警察から提供を受けている。事故件数、場所、年代、時間帯等のデータをクロス集計して各年齢層や時間帯でどこが多いのか。高校生が朝の通学時間帯に事故を起こすケースが多い等、数字も年代ごとに出ている。交通安全教室実施の際は、その辺りのデータも活用しながら、詳細に分析した上で、より効果的なアプローチを行っている。

○部会長

先ほど、高齢化との関連があったが、もう少しデータを精査する必要があると思う。この後の自転車部会では、市内高校の教頭先生も出席されるので、交通安全等に関しても意見を聞きたい。

○委員

総合交通計画には、新型コロナウイルス関係のことも記載があるが、バス事業者はかなりの打撃を受けている。何も無い時でも利益率5%くらいの薄利多売である中、今では20%減という状況。新型コロナウイルスからの復旧状況によって、バス事業者はこの前提条件から変わってくる大きな話。今後のお客さんの戻り等を注視していかなければいけない。

○部会長

これからどこまで長引くか状況が分からないが、それも含めて取りまとめを活かしてもらいたい。

7 事務連絡

8 その他

9 閉会